

史料・日本近代と「弱者」◆第1集

高橋 智
前田 博
石川 衣紀
編

現代日本教育の「格差・貧困」「発達・障害」を考える原典史料！

特別支援・特別ニーズ教育の源流

―鈴木治太郎の教育改革と適能教育論

全巻完結

◆編集復刻版

全9巻・別巻1

知能測定はどこまでも真の児童愛の動機から出なくてはならぬ。教育は価値実現の助成作用である。測定はその人の幸福を増進するために実行するので…何所までも、その子供の人格を尊重してこそよい結果が得られる。各々其の長所を認めて短所はせめず、その児童に勢をつけてやる様に親切のあるものでなくては、このテストは危険千万である。――「智能測定と小学校教育」より

緑蔭書房

刊行にあたって

高橋 智

〈東京学芸大学教授〉

▼シリーズII史料・日本近代と「弱者」

本シリーズでは「弱者」を、なかでもとりわけ困難を抱える「障害者、病者、子ども」に対象を限定し、国民国家の成立と近代化の過程で「弱者」がどのように誕生し、また取り扱われてきたのかを典型的に示す史料群を編纂し、必要な範囲において解説を行うものである。

弱者の概念それ自体は絶対的ではなく、歴史文化や社会体制・環境との相対的関係性により形成される側面が強い。例えば「知的障害」は「近代の人工的所産」といつてもよい。近代以前に知的障害者は「一人前でない弱者」として共同体の相互扶助の対象として包摂されていたが、国民国家の成立と近代化の過程で、国民国家の構成員としての「資格（義務と権利）」をもち得ない「欠格対象」「非国民」として制度化され、排除された。

今世紀の社会の課題は、多様な弱者を包摂した「インクルーシブ社会」、すなわち国民国家と国民の枠を超え、弱者一人ひとりの尊厳と価値を認め、彼らが真に権利主体としての社会参加や彼らの多様な差異・ニーズに応じた発達保障が担保されるような共生・協働的な市民社会を展望することである。かかる視座に立つて本シリーズでは弱者の歴史的解明をめざすものである。

▼特別ニーズ教育とは

近年の日本では、学習困難、不登校・不適応、いじめ・被虐待

非行、養護問題、各種のアレルギ―症状、慢性疾患・病氣療養などの子どもの心身の発達における様々な「ライフハザード」が示すように、子どもの生活と学習・発達をめぐる「格差・貧困」の諸問題が激化、深刻化している。

そうしたなかで現行の特別支援教育の狭く限定された支援対象や教育の場、また通常の学校・学級における特別な教育的配慮の不十分さなどの問題が指摘されている。通常の教育と特別支援教育、また各種の専門職・関係機関の「連携・協働」のもとで、子どもの学ぶ場所の如何を問わず、子どもの多様な困難・ニーズへの十全な対応と発達保障に向けた新たな教育＝特別ニーズ教育の創出がめざされている。

特別ニーズ教育とは、従来の特殊教育・障害児教育と通常教育という二分法的な教育対応ではなく、子どもの有する「特別な教育的ニーズ（通常の教育的配慮に付加して特別な教育課程、教育施設・設備、専門教職員配置、教材・教具等を必要とするニーズ）」に対応した特別な教育的ケア・サービス（医療・福祉・就労等の関連サービスを含む）の保障を子ども固有の権利として承認しながら、特別な教育的ニーズを有する子どもの諸能力と人格の発達保障を促進するための教育の理念・目的、法制度、行財政、カリキュラム、方法・技術、専門職養成などの総体をいう。

日本の教育法制では特別ニーズ教育というシステムは確立されていないが、その対象にはいわゆる狭義の障害児のほか、学習困難、LD、ADHD、アスペルガー症候群・高機能自閉症、不登校・不適応、心身症・神経症等の精神神経疾患、各種のアレルギ―症状、慢性疾患・病氣療養、非行、いじめ・被虐待、養護問題、移民・外国人の子どもや帰国子女などのうち、特別な教育的配慮の保障を要するすべての子どもが該当する。北欧などの教育福祉先進国では学齢児の一〇～二〇％が特別な教育的配慮、特別（ニーズ）教育の対象となり、とくにスウェーデンではさらに一歩進めて、義務教育から後期中等教育のすべての子どもに「個別発達支援計画IUP」を作成して「すべての子どものニーズに応じる教育」が制度化さ

れている。

それに対して、日本の義務教育段階における特別支援教育対象の児童生徒はわずか二・三％（二〇〇八年）に過ぎない。これは特別な教育的ニーズを有する子どもが日本に少ないことを意味するのではなく、教育財政面での貧困・制約から特別支援教育の対象が依然として「旧特殊教育制度の障害児＋LD・ADHD・アスペルガー症候群・高機能自閉症」に狭く限定され、通常の学校・学級に在学する多様な困難・ニーズを有する子どもへの特別な教育的配慮がきわめて不十分であることを示すものである。

現代の市場化・規制緩和、構造的不況や失業・不安定雇用等のなかで子どもの生活と学習・発達をめぐる「格差・貧困」が深刻化し、多様な困難・ニーズを有する子どもの急増に対して特別支援教育の枠では収まらないことは明らかであろう。現行の特別支援教育制度から、さらに特別な教育的配慮を要するすべての子どもの学習と発達の権利保障を進める特別ニーズ教育への移行とその制度化を早急に実現すべき時期にきている。

▼鈴木治太郎の子どもと発達の貧困」の視座と特別な教育的配慮の取り組み

松本伊智朗（二〇〇八）は「子どもの貧困」をとくに重視する理由として、子どもをめぐる不利の連鎖・固定化が「成長と発達の機会を阻害する」という意味で、深刻であり、「子どもの貧困」は「発達の貧困」であることが挙げている。

こうした「子どもと発達の貧困」という視点をもち、戦前期の大阪市の小学校において特別な教育的配慮の先駆的活動を行なっていた人物として鈴木治太郎（すずき・はるたろう、一八七五―一九六六）を挙げることができる。鈴木は「鈴木・ビネ式知能検査法」の開発者として有名であるが、彼が生涯になした活動は多岐にわたり、大阪府師範学校附属小学校「特別教室」での学業不振児教育の実践、知能検査法の開発と標準化、大阪市の小学校における特別学級編製の制度化、大阪

市立児童教育相談所および大阪市立思育学校(日本で最初の公立の知的障害児学校)の設置と運営という一連の活動を通して、子どもの生活と発達における多様な「貧困」に対応した特別な教育的配慮の開発に努めた人物であった。

鈴木は一九一七(大正六)年から一九二九(昭和四)年まで大阪市視学として活動し、特に在任期の前半は大阪市児童の不就学問題の解明と対策立案に尽力をしている。当時の大阪市の急激な産業化にともなう人口爆発を背景に貧困・児童労働・スラム拡大・不衛生などさまざまな都市問題が噴出し、教育現場においても不就学・二部教授・過大学級といった問題が顕在化していた。鈴木はそのような厳しい貧困状況におかれていた子どもの生活と発達の問題に早くから目をむけ、子どもたちの各種の困難の把握と支援の実現に努めたのである。

今日の貧困問題と当時の貧困状況を同列に論じることではできないが、後述のように鈴木の一連の特別な教育的配慮の理論と実践、特に知能測定法を利用した児童研究と支援体制の構築は、当時の多様な「貧困・困難」を子どもの観点に立って捉え、子どもの「生活と発達」の具体的な解決策を個々の状況に応じながら案出する活動(＝特別な教育的配慮のシステム開発)であったと評価することができる。

▼本史料集編纂のねらい

本史料集は、戦前に鈴木治太郎が取り組んだ一連の特別な教育的配慮を「生活の貧困」「発達の貧困」という二つの教育問題への対応策としてとらえなおし、当時の子どもをとりまく多様な「貧困・困難」に彼がどのように対応していたのかを検討しながら、その現代的意義を明らかにすることを編纂のねらいとしている。この課題にもとづき、本史料集では鈴木の活動を「生活の貧困」「発達の貧困」の二つの枠組みからとらえ、それぞれの貧困と密接に関係した児童の多様な困難・ニーズを鈴木がどのように把握し、どのような教育対策・対応を開発したのかを明らかにしていく。

【鈴木治太郎と「生活の貧困」の実践】

①鈴木が大阪府師範学校附属小学校「特別教室」で行った学業不振児への個別実践の内容を検討し、「生活の貧困」とりわけ「家庭環境の貧困」から生じていた児童の学習困難をどのように把握し、いかなる対応を行ったのかを明らかにした。

②一九一七(大正六)年に関「大阪市助役(のち大阪市長)に抜擢されて大阪市視学となった鈴木が、当時の大阪市内における不就学・二部教授・過大学級をはじめとした劣悪な教育条件の問題をどのように把握し、教育救済事業を通して都市下層社会における子どもの貧困とどのように向き合ったのかを明らかにした。

【鈴木治太郎と「発達の貧困」の実践】

③鈴木による知能測定法標準化実験の具体的過程と意義を検討し、子どもの発達における「貧困・困難」の理解をどのように深化させたのかを明らかにした。

④一九二三(大正一二)年以降、鈴木の主導のもとに大阪市教育部によって計画設置された同市特別学級編制について、それが通常教育の枠組みにおける「発達の貧困」への特別な配慮のひとつであったという視点から検討し、実践内容の特徴と意義を明らかにした。

⑤大阪市内における学業不振児調査、特別学級や児童教育相談所での実践から明確にされていく「障害の重い子ども」の教育対策・対応の必要性に関して、鈴木がどのように認識・構想したのかを検討し、「発達の貧困」へのより制度的な対応と鈴木との関わりを明らかにした。

⑥上記の作業を踏まえたうえで、鈴木が児童の多様な「貧困・困難」への教育的配慮を実現するために提起した「適能教育論」の構造・内容・意義について検討し、それが鈴木の特別な教育的配慮のシステム開発にどのように位置づいたのかを明らかにした。

(たかはし・さとし)

推薦

「教師の教育学」解明 のための史料群

木村 元

〈一橋大学大学院社会学研究科教授

鈴木治太郎といえば個別知能検査である「鈴木・ビネー」法の生みの親として有名である。しかし名前は知られているが、その人物はとなると意外にも知られていない。このたび、緑蔭書房から鈴木治太郎の史料集が刊行される。そこには知能検査の制作者としての鈴木のみならず、その歩みが詳しく見て取れ、その賛否を含めて多大な影響を与えてきた知能検査に関する研究のための重要な情報を提供している。

のみならず興味深いのは、鈴木が学校教育の定着に伴って様々に現れてくる現場の問題を解決しようと知能検査を始め様々な方法を試みていたということである。

鈴木が教師として歩んだ時期は、日本の社会が実質的に学校を受け入れ、学校に通うことが当たり前になっていく時期である。それに伴って、教師は学習困難な子どもも含めて多様な子どもたちに向き合うことが課題とされた。にもかかわらず日本の講壇教育学はその指針を与えてくれない。その中で自らの教育学を作り上げていく営みの結実として知能検査(ベダゴジ)があった。鈴木の実践は、現場の困難を前にした無数の教師たちの営みの一つであり、教育の事実から教育学を作り上げようとする動向、すなわち教育学の動きとも連動しながら教育界で大きな存在として位置づいていく。

こうした意味で、本史料群は、無数に存在した「教師の教育学」の形成の解明の一助として、障害児教育はもとより教員史や学校史研究などを始め教育学全般に寄与するものであるといえよう。

(きむら・はじめ)

収録史料一覧

第1巻

明治期の画一的教育批判と「特別学級」の試み

明治二〇年代の欧米の諸教育学説の流入を契機に明治政府の画一的教育を批判し、児童の教育実態を把握するために「特別学級」を試み、その実践の理念として、個々の天分に応じた合理的な適能教育の必要性を説いた適能教育論を展開させていく。

小学期に於ける男女児童心性の比較研究上・下

(鈴木治太郎 『児童研究』三巻二号・四号 教育研究所 一九〇〇年八月・一〇月)

成績不良児取扱二関スル実験報告

(大阪市役所教育部・鈴木 一九二二年一〇月)

教育の実験一、二(鈴木 『日本之小学教師』一一巻一二号 国民教育社 一九〇九年一月)

大正期大阪の都市教育問題一

第一次大戦後の大阪市の工業化に伴う都市問題や社会的矛盾の深刻化は都市教育問題として子供にも深刻な影響を及ぼしていた。この時期鈴木は大阪の都市児童の教育問題に関する多くの論稿を書いている。その他、大阪市視学として大阪市の教育改善に児童の不就学実態の調査の必要性を提唱して着手した「二大就学実態調査」報告書を収録。

教授訓練雑感(鈴木 『初等教育教材研究』六巻六号 大阪府天王寺師範学校 一九〇八年)

一眼の視覚につきての研究

(鈴木 同・七巻七号 一九〇九年)

色の感覚特に色盲につきて

(鈴木 同・七巻七号)

教具研究『付』教育品展覧会につきて

(鈴木 同・九巻四号 一九一一年)

補習教育概説(鈴木 同・九巻六号 一九一二年)

改正後の高等小学校(鈴木 同・九巻二二号 一九一二年)

慾望の心理を論じて幼年、少年、青年の教育に及ぶ

(鈴木 同・一〇巻二二号 一九一二年)

観念より意思を養ふ方法

(鈴木 同・一〇巻四号・五号 一九一二年)

習慣より意思を養ふ方法(鈴木 同・一〇巻九号 一九一二年)

注目すべき新実業学校の出現

(鈴木 『国民教育教材研究』一四巻三三三 一九一六年)

子供の喧嘩と教育(鈴木 同・一四巻四号 一九一六年)

都市小学校教育問題(1)(11)

(鈴木 同・一四巻五号・一五巻一〇号 一九一六年・一九一七年)

吾人は国家の為にこの方面の発達を希望す

(鈴木 同・一五巻一号 一九一七年)

学年末に於ける児童成績品の整理

(鈴木 同・一五巻三三三 一九一七年)

都市の教師の研究に待つべき卒業生指導問題

(鈴木 同・一五巻臨時増刊号 一九一七年)

『大阪市ニ於ケル細民密集地帯ノ廃学児童調査ト特殊学校ノ建設ニツキテ』(大阪市役所教育部・鈴木 一九二二年二月)

『大阪市水上生活者ノ学齡児童就学状況調査ト其ノ教育上ノ対策』(大阪市役所教育部・鈴木 一九二二年一〇月)

第2巻

大正期大阪の都市教育問題2

鈴木の代表的著作の一つ。都市教育の重要性を認識し、都市の実態を見据えながら大阪市の小学校教育の構築を主張したもので、大阪市視学に異例の抜擢をされるきっかけとなった。

『初等教育最近実際問題の研究』

(鈴木治太郎 宝文館 一九一〇年一〇月)

『初等教育最近実際問題の研究』増補再版「付録 大阪府天王寺師範学校付属小学校の近況」

(鈴木治太郎 宝文館 一九一二年五月)

第3巻

知能測定法標準化実験1

鈴木は大規模な標準化実験で「鈴木・ビネ式知能測定法」を完成させたことでも著名であるが、特別学級編制を中心とした適能教育の推進には児童の適切な判別も不可欠な要素であると考え、大正末より一九三七年にかけて標準化実験(第一次)を重ねた。

『智能発達検査法略説』

(大阪市役所教育部・鈴木治太郎 一九二四年五月)

『智能測定尺度ノ実験的統計的基礎』

(大阪市役所教育部・鈴木 一九二五年三月)

『智能測定と児童の適能教育』

(大阪市役所教育部・鈴木 一九二九年三月)

『大阪市教育部に於ける児童の智能発達測定尺度の正確度についての考察』(大阪市役所教育部・鈴木 一九二九年四月)

智能測定と小学校教育

(鈴木 『我が郷土』滋賀県教育会 一九三三年三月)

『精神観察並に精神検査の活指針』

(大阪府学務課・鈴木 一九三四年四月)

『智能測定尺度の客観的根拠』(鈴木 一九三六年九月)

個別の智能測定法に就て(鈴木『精神衛生』三巻二二号 一九三七年二月)

第4巻

知能測定法標準化実験2／付録

対象年令の拡大Ⅱ第二次標準化実験に専念するため視学を辞した鈴木が過去九カ年の調査研究の成果をまとめたもの。付録は知能測定法標準化へ至る研究の回想記等を所収。

『実際の個別的智能測定法(昭和十一年修正増補版)』
(鈴木治太郎 東洋圖書 一九三六年六月)

『実際の個別的智能測定法(昭和十六年修正増補版)』(抄録)

(鈴木治太郎 東洋圖書 一九四一年一月)

付録

『智能発達の事実と学業成績―両親と教師に呈するの書』

(一九三四年 津田清次浄書)

心理学遍歴―鈴木ビネー尺度の「生い立ち」の記(鈴木「児童

心理」八巻二一号 金子書房 一九五四年七月)

第5巻

大阪市特別学級編制1

一九二三年以降、大阪市中で推進した特別学級編制の実態史料。
鈴木のインシアチブで行われた適能教育の方法的具体化で、学
業不振児問題の解決を求める大阪市教育局と小学校教育現場の
必要認識が合致して特別学級が開設された。

私の促進学級(橋本弥七 一九二四年)

真教育への第二步(橋本 一九三一年二月)

『小学校に於ける精神薄弱児教育の実際』

(土屋兵次 大阪市立久宝小学校 一九二五年)

『精神薄弱児感覚練習の実際例』

(土屋 大阪市立久宝小学校 年不明)

『校報(調査研究の部)』(喜田正春他 大阪市船場尋常高等小学校

一九二七年一〇月)

『校報(調査研究第三輯)』(喜田正春他 大阪市船場尋常高等小学校

一九二九年二月)

『本市特別学級に於ける収容児童の個別教育経過の実例』

(大阪市役所教育部 一九二八年十二月)

第6巻

大阪市特別学級編制2

一九三〇年代を中心にした大阪市内小学校の特別学級の実践・
調査報告類を収録。

『大阪市教育要覧』大正一四年度・昭和二・三年度(抄録)

(大阪市役所教育部 一九二五年・二七年・二八年度)

『大阪市学事要覧』昭和一〇(一六年度)(抄録)

(大阪市役所教育部 一九三五年(四一年度)

『大阪市学事統計』昭和四・五・六年度(抄録(大阪市役所教育部

一九三〇年四月、一九三二年五月、一九三二年五月)

『大阪市特殊教育概況一覽』昭和五年度

(大阪市特殊教育研究会 一九三〇年度)

小学校卒業児童の進路に就て(田村肇『教育時報』一七輯

大阪教育会 一九二九年二月)

生きたる児童調査(田村『教育時報』二五輯 一九三〇年六月)

『児童調査運用の経験』

(田村他 大阪市中大江東尋常小学校 一九三二年二月)

『本校の特別学級』

(田村他 大阪市中大江東尋常小学校 一九三七年)

新卒業生職業指導の施設

(三橋節『教育時報』一七輯 一九二九年二月)

『我校特別学級に於ける収容児童の個別教育経過の実例』

(弓場幸吉 大阪市難波元町尋常小学校 一九三二年二月)

『大阪市難波元町尋常小学校特別学級経営の実際』

(弓場 大阪市難波元町尋常小学校 一九三三年二月)

補助学級卒業児童の現況

(弓場『精神衛生』一四卷五号 一九三九年一〇月)

『児童調査とその運用の経験』

(大阪市日吉尋常高等小学校 一九三三年四月)

『促進学級の一考察』

(大阪市日吉尋常高等小学校特殊教育研究部 一九三七年)

『本校の特別学級に就て』(柴井貞子 一九三九年七月)

『わたしの体験を主としたる特別学級経営案』

(高津保雄 一九三九年一〇月)

『本校ニ於ケル特殊教育ノ概観』

(大阪市道仁尋常小学校特殊教育研究部 一九四〇年七月)

第7巻

大阪市特別学級編制3

大阪市中大江小学校の調査報告書。鈴木の指導の下で大阪市の
特別学級編制の推進に指導的役割を果たした田村肇らが九年間
の体験に基づいてまとめたもの。

『実験的体験的個性の調査と教育』

(田村肇・北田米松共著 文叢堂書店 一九二九年七月)

第8巻

知的障害児教育の制度化

一九三八年大阪市内全小学校で実施された知的障害者調査関係史料
の他、この調査に基づき制度化された教育施設、大阪市の児
童の教育効果の増進を図る目的で設立された大阪市立児童教育
相談所関係史料と公立では日本で最初の知的障害児を対象とし
た思斉学校関係史料を収録。

1 大阪市における知的障害児調査関係史料

「精神薄弱児童養護施設講習会」関係史料

精神薄弱児童養護施設講習会

(「学校衛生」一一卷二号 帝国学校衛生会 一九三二年二月)

精神薄弱児童養護施設講習会概況

(同・一一卷三号 一九三二年三月)

精神薄弱児童養護施設に関する方案

(同・一一卷五号 一九三二年五月)

大阪市内に於ける学業不進児の調査(喜田正春『精神衛生』一四年

三号 日本精神衛生協会 一九三九年)

学業不進児を調査しての感想

(鈴木 同・一四年四号 一九三九年八月)

精神薄弱児の程度と智能指数との関係について

(鈴木 同・一四年六号 一九三九年十二月)

『浮浪児の智能検査報告』

(大阪府社会部・鈴木『社会部報告』七号 一九四六年二月)

『大阪市に於ける学業不進児の調査』

(大阪府役所教育部・鈴木治太郎 一九三九年二月)

2 制度化への動き(児童教育相談所・思斉学校)

三万学童へ温い相談所

(『大阪朝日新聞』大阪朝日新聞発行所 一九三七年四月二〇日)

大阪市立児童教育相談所新築工事実施伺

(一九三七年一月一日起案)

特殊学校創設に関する質疑・応答

(昭和一三年度予算分科第三部会速記録抄録 一九三八年度)

『特殊学校企図要望』の「希望事項」採択

(昭和一三年度大阪府社会会議録抄録 一九三八年三月二六日)

特殊学校創設・天才教育に関する質疑・応答

(昭和一四年度予算分科第三部会速記録抄録 一九三九年)

『特殊学校創設ノ件』議案第二二三号

(昭和一四年度大阪府社会会議録 一九三九年二月一四日)

英才教育に関する質疑・応答

(昭和一四年度大阪府社会会議録抄録)

精神薄弱児童養護施設展覧会概要

(大阪朝日新聞社会事業団 一九三九年四月)

資料 特殊学校の学則設備等に関する答申書

(『精神衛生』一四年三号 一九三九年五月)

智能発達遅滞児に対する適能教育案

(鈴木『学童の保健』一〇巻一一〇号 一九三九年五月)

精神薄弱児の特殊学校設置に就ての希望

(田村肇『精神衛生』一四年四号 一九三九年)

教育研究所の新設・児童教育相談所の開始(昭和一五年度大阪

市会予算分科第三部速記録抄録 一九四〇年)

悩みのある学童へ光明(『大阪朝日新聞』一九四〇年一月一七日)

欠陥のある子も天才児も伸ばさう

(同 一九四〇年三月一日)

来月から開設(同 一九四〇年五月二三日)

3 大阪市立児童教育相談所関係史料

大阪市立児童教育相談所規定

(『大阪府公報』二〇九二号 一九四〇年八月一日)

市立児童教育相談所開所式のあいさつ(鈴木 一九四一年三月)

大阪市立児童教育相談所使命及び事業案内

(大阪市立児童教育相談所)

大阪市立児童教育相談所概況(大阪府役所教育部 一九四一年三月)

コドモの智能と学校教育―能力に適した道へ進ましめるには

(鈴木『母と子』一二巻四号 日本児童協会 一九四一年四月)

大阪市立児童相談所相談票・性能検査票

大阪市立児童相談所相談者統計(昭和一五年度、昭和二〇年度)

4 大阪市立思斉養護学校関係史料

異常児に対する特殊教育(田村『社会事業研究』二九巻一号 大阪

府社会事業協会 一九四一年三月)

学業不進児養護学級の経営に就て

(大阪市立思斉学校 一九四二年)

大阪市立思斉国民学校児童観察録

養護学校経営の実際(文部省主催養護施設講習会)

(田村 一九四二年一〇月)

精神薄弱児童の教育上・中・下(田村『学校衛生』二二巻一二号・

二三巻一号・二号 一九四二年一月・一九四三年一月・二月 帝国

学校衛生会)

本校沿革の概要(大阪市立思斉養護学校)

思斉学校の成立と発展(『思斉学校史』抜粋 一九六五年二月)

第9巻

『優秀児』調査・研究

付Ⅱ 鈴木治太郎・喜田正春往復書簡集(抄録)

鈴木は適能教育論の一環として学習困難や遅れている児童に対し

する特別な教育的配慮のみでなく、知能の高い児童に対しても特別な配慮が必要であることを主張し、彼等の保護を提唱した。「優秀児」調査資料と研究史料を収録。付録は鈴木の知能測定法標準化実験のよき理解者としてその普及に長年尽力した喜田正春との往復書簡。鈴木の教育改革への情熱と同じ研究者・教育者に対する真摯で公平無私の人柄を窺うことができる。

人間資料の活用(鈴木『社会事業研究』二八巻一一号 大阪府社会事

業協会 一九四〇年十一月)

優秀智能児の保護(鈴木『精神衛生』一六年一号 日本精神衛生協会

一九四一年二月)

優秀児(特殊教育Ⅴ)(松本亦太郎他編『現代心理学』一一巻・教育心理

学Ⅱ 一九四二年)

優秀児の問題(鈴木 日本優生連盟總會速記録 厚生省 一九四二年四月)

『優秀智能児はどんな親から生れるか』

(鈴木 東洋図書 一九四九年六月)

これでは学童たちがかわいそうです

(鈴木『保健』一六巻七号 大阪市衛生局 一九五〇年八月)

智能鑑別について(鈴木『少年輔導』二巻一一号 二月号 大阪市

少年防犯協議会 一九五〇年二月)

智能鑑別とその結果の利用について(鈴木『みおつくし』七巻

一〇号 大阪市警察職員厚生会 一九五四年一〇月)

『優秀児童家系調査』(鈴木 日本学術振興会編 丸善 一九四五年二月)

『大阪市尋常小学校に於ける優秀智能児の調査』

(大阪府役所教育部・鈴木治太郎 一九四〇年二月)

付Ⅱ 鈴木治太郎・喜田正春往復書簡集(抄録)

(一九二九年、一九六一年)

別巻

高橋智・石川衣紀・前田博行著

戦前における鈴木治太郎の小学校教育改革の実践と

特別な教育的配慮のシステム開発

・鈴木治太郎略年譜・鈴木治太郎目録



208

都市小學の教育問題(九)

鈴木治太郎

都會に於ける刺激過多と都會病と兒童教育

▲現代の都市人、特に、大都市の人々は、田舎人に比して、その神経が頗る鋭敏である。單に鋭敏といふ丈でなく、絶へざる各種の刺激の重荷を負ひ、あるものは自分の力に負ひ切れざる程の重荷を負ひ、常にその神経が興奮の状態にある。この興奮状態が久しく續き、休養する時間と興へない、終には、その神経を甚だしく疲勞せしめ、衰弱せしめ、あるものは些少なる刺激に對しても異様の反應を呈する神經過敏症となり、あるものは少しの刺激に感ぜざる麻痺的狀態を來すなど、所謂神經疲勞或は神經衰弱症的の傾向を呈して來るのである。

▲人々のこの傾向は、都會といはず、田舎といはず、苟も近代的教育を受け、時代精神の空氣に觸れたものには、等しく

國語 第十五卷

(一九一七)

小學校教育の研究

第七 號

(七五)

「都市小學の教育問題」より〔第1巻所収〕

内容見本

・縮小見本・

昭和四年八月二十五日〔喜田正春宛 鈴木治太郎手紙〕

喜田君

心ならずも御手紙を差し上げることが遅れました。御ゆるし下さい。御着任後の詳細なる御様子、繰り返し拝見いたしました。相変わらずこの途の熱心なる御尽力嬉しく存じます。

本年五月六月後より、府下郡部に於てもテストを教育に利用することになり、大阪市のスケールを使用する關係上、府からの依頼もあり、私はこの六月頃からこの八月にかけて殆んど日曜日毎に各郡にて説明をせねばならぬ様なことになり、殆んど休日もなく、其上平日は市内各区が大体的に全部に実行することになり、放課後は各区それ等の説明につかれ、帰ると筆をとる勇氣もなく、方々からは手紙を頂戴して置きながら、御無札をいたして居りました。本年の夏は随分暑さが厳しかったため、多少身体に故障が起りはせぬかと思ふ位でしたが、どうなり？達者で過ごすことが出来ました。

御手紙中の各問題に對する地方事情に依る変化はテストする機能の性質に変化のなき限り、適宜の変更は当然と存じます。御申越し御意見の通り実行せらるゝ方がよろしく存じます。色の問題はとも貴兄の御実験の様

点が、私の口にもある様に思ひます（地方により）。今後いろいろ御実験の結果についても承りたいと存じます。特別学級に對する施設は、我國ではどうも一般の了解を充分に得難く、或は今後貫徹する様なことにならぬかと心配して居ます（経済上の圧迫を受けて）。

この種の充分なる編制は我國の事情では理想的の私立学校に望むより外ないかと存じて居ります。従つて私はこれを広く一般化して、この性質を普通編制の学級に適用して、熱心なる教師に依つてこれを用いて個人指導の域を出来る丈尽すより外なき様にも考へ、今はその方面に力を尽したいと存じ、及ばぬながら尽力をして居ります（勿論特別学級が縮める積りは少しもありませぬが）。

三田谷博士の事業は随分困難と戦つて居られる様ですが、今回、阪神国道沿線打出緑丘に立派な建物が出来、なか／＼盛になつて行く様です。今回氏の主催された講習会なども三百五、六十人の会員出来、なか／＼盛会でした。

個性調査、職業指導といった様な問題が全国一般的に盛になつて來た様です。これもどうか一時の流行として

47 鈴木治太郎・喜田正春往復書簡集

「鈴木治太郎・喜田正春往復書簡集」より〔第9巻所収〕

鈴木治太郎年譜

- 一八七五年 滋賀県大津市膳所に生まれる
- 一八九七年 滋賀県師範学校卒業
- 一九〇六年 大阪府師範学校附属小で「特別教室」を開設。翌年「学業成績不良児取扱方実験報告」が『官報』に掲載、注目される
- 一九〇八―一七にかけて都市兒童の教育問題の論稿を多数発表す
- 一九一七年 大阪市視学に拔擢、市内兒童の不就学実態調査等を実施
- 同年 代表的著作の一つ『初等教育最近實際問題研究』発刊
- 一九二〇年 知能測定法の作成に着手
- 一九二三年 知能測定法の大規模標準化を實踐。適能教育の具体化で大阪市特別学級編制を推進
- 一九二九年 知能測定法の研究に専念するために大阪市視学を退任
- 一九三〇年 『實際的個別的智能測定法』刊行
- 一九三七年 大阪市の依頼により全小學校の「学業不進児」「優秀智能児」調査を行う
- 一九四〇年 大阪市立兒童教育相談所所長の事務嘱託を受ける
- 一九五〇年 京都大学より文学博士号授与
- 一九六六年 二月死去。享年九一歳。



鈴木治太郎

◆編集復刻版◆

史料・日本近代と「弱者」 第1集

特別支援・特別ニーズ教育の源流

全9巻
[別巻1]

鈴木治太郎の教育改革と適能教育論

編者

高橋 智

〈東京学芸大学教授〉

前田 博行

〈小平市立小平第二小学校教諭〉

石川 衣紀

〈白梅学園大学子ども学部助教〉



大阪市立児童教育相談所

刊行概要

第1巻 明治期の画一的教育批判と「特別学級」の試み

大正期大阪の都市教育問題1

第2巻 大正期大阪の都市教育問題2

第3巻 知能測定法標準化実験1

知能測定法標準化実験2／付録

第4巻 大阪市特別学級編制1

第5巻 大阪市特別学級編制2

第6巻 大阪市特別学級編制3

第7巻 知的障害児教育の制度化

第8巻 「優秀児」調査・研究／付録 鈴木治太郎・

喜田正春往復書簡集抄録

別巻 高橋智・石川衣紀・前田博行著

戦前における鈴木治太郎の小学校教育改革
の実践と特別な教育的配慮のシステム開発

◆A5判・上製・総約四、〇〇〇ページ

◆揃定価＝本体二〇〇、〇〇〇円＋税〔分売不可〕

ISBN978-4-89774-542-8

本史料集の特色

▼近代日本の教育先進地域＝大阪における都市教育問題と小学校教育改革、特別な教育的配慮と特別学級編制、知的障害児教育の制度化のプロセスを系統的にたどることができる。

▼日本の代表的な「知能検査」＝「鈴木・ビネ式知能測定法」研究の重要な史料であり、日本心理学史に不可欠な文献。

▼別巻を付し、鈴木治太郎の業績と本史料の歴史的意義を明らかにした。鈴木治太郎研究の最初の著作。

◆推薦＝木村 元（一橋大学大学院社会学研究科教授）

◆おすすめしたい方

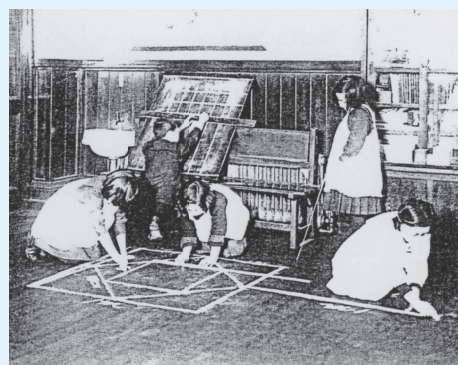
日本教育史・障害者教育史・社会事業史・心理学史の研究者、大学・公共図書館、教育研究機関など

◆史料・日本近代と「弱者」第2集

高橋智（東京学芸大学教授）

河合隆平（金沢大学准教授） 編

日本近代と困難児・障害児保育史料集成版



「特別学級」の授業風景（お手玉を使用した実測練習）

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋 1-13-1 ☎03(3579)5444・振替 00140-8-56567

申 込 書	高橋智・前田博行・石川衣紀編／緑蔭書房刊 特別支援・特別ニーズ教育の源流(全9巻・別巻1) <input type="checkbox"/> 部申し込みます ISBN978-4-89774-542-8 揃本体 200,000 円＋税 (分売不可)		お申し込み書店名
	お名前		
	ご住所 〒		
	お電話		